

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年4月23日（金）

2 確認箇所

1号機原子炉建屋（大物搬入口2階）

3 確認項目

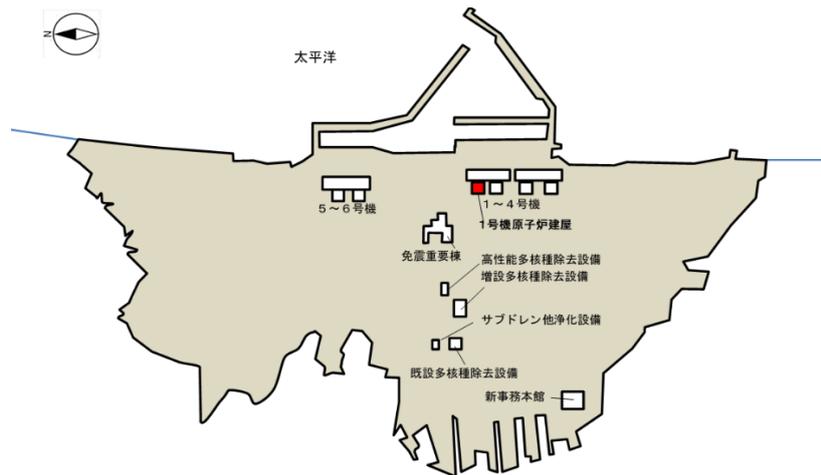
1号機原子炉格納容器アクセスルート構築に係る干渉物調査の状況

4 確認結果の概要

東京電力では、1号機の燃料デブリ取り出しに向け、水中ROVによる原子炉格納容器（以下「PCV」という。）内部調査のための準備作業を令和元年4月8日より開始している。（前回確認：[令和元年6月4日](#)）

今回、PCV内のグレーチング下部鋼材以下の干渉物（PLR^{※1}（原子炉再循環系統）計装配管^{※2}及び電線管）の詳細な位置を把握するため、X-2ペネからカメラを投入し調査を開始することからその状況を確認した。

- ・本日はカメラ投入用の3つの配管とPCVをつなぐ隔離弁を開く作業が実施されていた。弁を開く前後においてPCV圧力の有意な変化は確認されなかった。
- ・隔離弁を全て開にした後、カメラを慎重にPCV内部に挿入する作業が実施された。
- ・本作業は本日から4月26日まで予定されているとのことであった。



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図

※1 沸騰水型原子炉において原子炉圧力容器内の冷却水を強制循環させて熱出力を制御する系統。

※2 通常運転中においてPLRポンプの圧力を監視するための配管であり、現在は使用されていない。しかし、切断した場合は原子炉注水の流路に影響を与える可能性があるため、東京電力では切断をしないとしている。

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。